

# 豊田市 今ある農地を活かし、守り、残す、 農地利用の最適化を進めるために 農業委員会だより

第17号  
令和2年10月1日発行

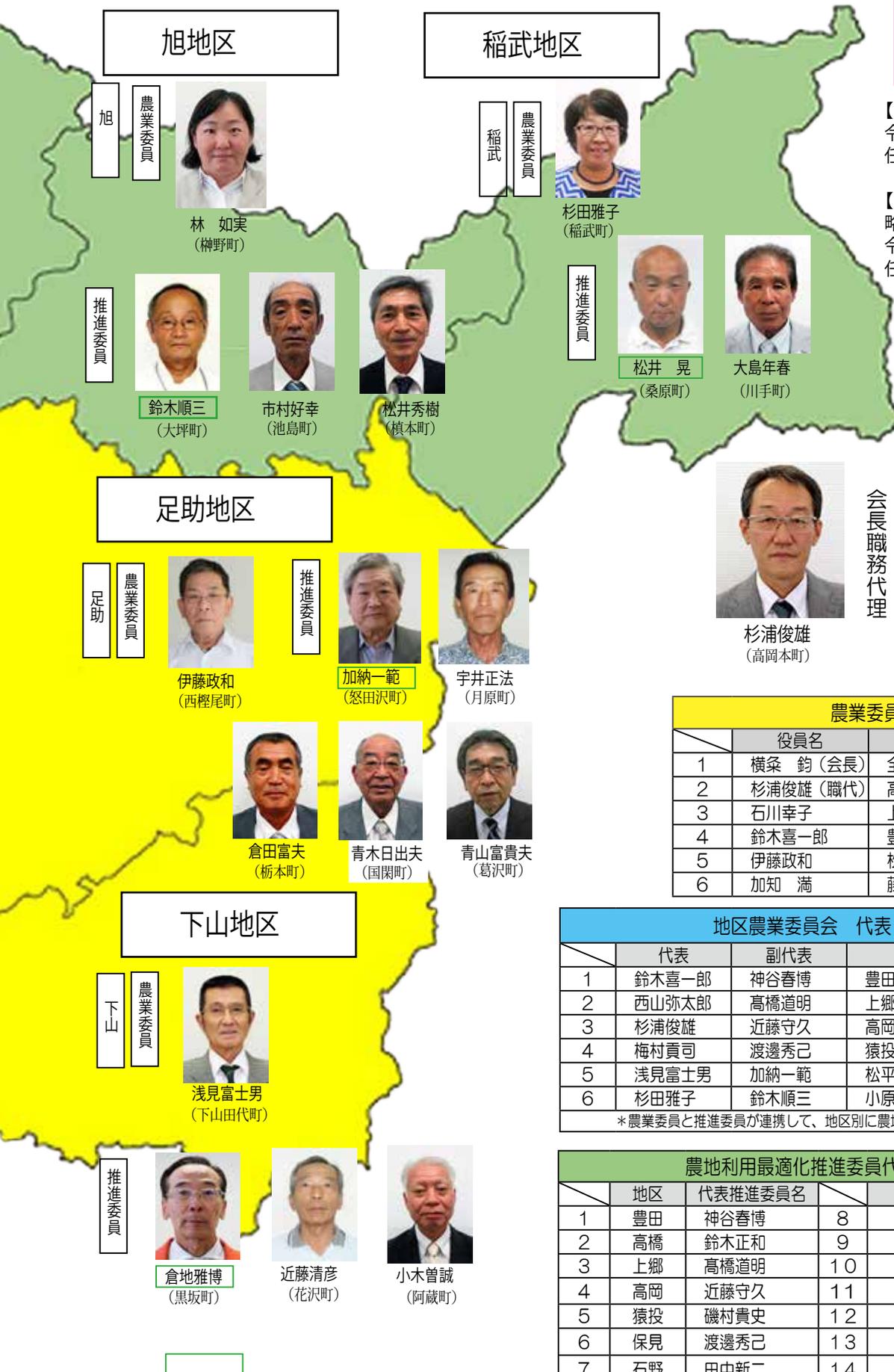


農業委員会の委員が改選されました。

農業委員 19 人と農地利用最適化推進委員 45 人の合計 64 人。任期は 3 年で、農地利用の最適化に取り組みます。

# 令和2年7月 改選 新委員

## 地区別の豊田市農業委員・推進委員は次の皆さんです



【農業委員】  
令和2年7月20日から  
任期 3年間 (～5.7.19)

【農地利用最適化推進委員】  
略称 推進委員  
令和2年7月20日から  
任期 3年間 (～5.7.19)

豊田市農業委員会 会長

豊田市農業委員会  
会長職務代理



杉浦俊雄  
(高岡本町)



横桑 鈞  
(保見町)

農業委員会役員		
	役員名	担当地区
1	横桑 鈞 (会長)	全地区
2	杉浦俊雄 (職代)	高岡
3	石川幸子	上郷
4	鈴木喜一郎	豊田・高橋・猿投・保見・石野
5	伊藤政和	松平・足助・下山
6	加知 満	藤岡・小原・旭・稲武

地区農業委員会 代表・副代表			
	代表	副代表	担当地区
1	鈴木喜一郎	神谷春博	豊田・高橋
2	西山弥太郎	高橋道明	上郷
3	杉浦俊雄	近藤守久	高岡
4	梅村貢司	渡邊秀己	猿投・保見・藤岡・石野
5	浅見富士男	加納一範	松平・足助・下山
6	杉田雅子	鈴木順三	小原・旭・稲武

\* 農業委員と推進委員が連携して、地区別に農地利用の最適化を図る委員会

農地利用最適化推進委員代表者 地区別					
	地区	代表推進委員名		地区	代表推進委員名
1	豊田	神谷春博	8	藤岡	長江茂徳
2	高橋	鈴木正和	9	小原	加藤信行
3	上郷	高橋道明	10	松平	加藤正道
4	高岡	近藤守久	11	足助	加納一範
5	猿投	磯村貴史	12	下山	倉地雅博
6	保見	渡邊秀己	13	旭	鈴木順三
7	石野	田中新二	14	稲武	松井 晃

緑の枠内の方は地区  
推進委員の代表者

■ 農業委員会に関するお問い合わせは 農業委員会事務局 電話 34 - 6639

農業委員 19人  
農地利用最適化推進委員 45人  
委員総数 64人

保見地区



猿投地区



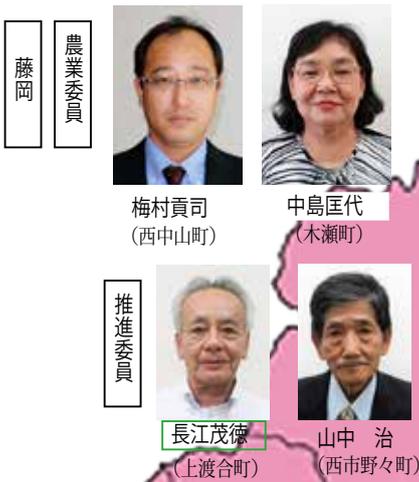
豊田地区



高岡地区



藤岡地区



小原地区



石野地区



高橋地区



松平地区



上郷地区



# 特集

## 農地利用最適化活動の進め方

### 豊田・みよし 岡崎・知立 各農業委員会 の抱える課題

座談会

#### 豊田市



豊田市農業委員会 会長  
横糸 鈞さん

市域が平野部と山間部で大きな違いがあります。地区農業委員会方式で、地域特性に応じた農地利用最適化を推進しています。

中山間地の農地利用最適化活動は、担い手育成と農地条件改善が課題ですが、難関が山積し、悩ましいです。

#### 地域密着型の推進委員

当市の推進委員は45名で、愛知県内では第1位の委嘱人数です。地域が広く多様なため、地区ごとの活動を基本にできるように、地区に合わせた人数にしています。農業委員は19名と少ない人数です。

推進委員さんの活動をどう展開するかが、農地利用最適化の力ぎです。今年度の改選では、47%の推進委員が再任となり、活動経験者に引き継ぎ継続してもらえることは心強いです。

#### 地区農業委員会方式の活用

名称の違いはあるが、地区を中心にした活動は他市の農業委員会でも行われているようです。地区農業委員会では最適化の具体策を実行することが重要です。課題の多い地区程、課題の議論をすることに終始し、肝心の実行が伴わないことがあります。新たな工夫、知恵、挑戦する勇気と努力、新生農業委員会として、地区農業委員会の更なる充実をこれから3年間目指します。

#### みよし市



みよし市農業委員会 会長  
岩田信男さん

市内を4地区に分けて、実質化された人・農地プランに取り組んでいます。農業従事者の減少や高齢化等による担い手不足が課題です。特に畑地の担い手のため、農地の集積・集約化に力を入れています。

#### 農地利用最適化へ様々な取組み

新体制発足時は、各委員が効率的に活動できるよう、農地利用最適化に係る制度への理解を深めることに努めました。中期には、農地の仲介を行う方を模索しました。地域の現状として、農地利用円滑化事業が主流であり、仲介役となる農協への依存度が高かったことから、実行までには至りませんでした。後期では、市と協力し、市を4地区に分け、農業関係者による地域農業を考えるワークショップを開催し、地域農業の実情の把握に務めました。

#### 畑地の担い手確保が課題

現在、市内農地においては、集積・集約化の推進と、畑の担い手確保が課題となっています。今年度、市による人・農地プランの実質化が進められますが、田の集積・集約については一定の成果が得られる反面、畑の担い手確保については難航することが想定されます。その他、農地に係る大小様々な問題がある状況ではありますが、農業委員・推進委員が協力し、課題解決に尽力していきます。

## 岡崎市



岡崎市農業委員会 会長  
羽根田正志さん

西三河は平野部が多く、昔から豊かな穀倉地帯です。しかし、岡崎市も都市的地域の拡大、山間部農家の高齢化による農地維持の困難さなど、多くの課題を抱えています。推進委員の活動地区を、葵・東部・矢作・六ツ美・額田の5地区に分け、地域の実態に応じた取り組みや対策の推進を行っています。

### 総会終了後に、意見交換会

農業委員会総会后、農業委員、推進委員、事務局職員が、5地区に分かれ、各地区における課題の洗い出しを行います。課題解消に向けての意見交換で、議論内容は遊休農地の発生防止・解消、農地の集積・集約、新規就農の促進など活発な議論を行います。

実際に課題を解消することはなかなか難しい状態ではあります。状況調査は徹底的に行い、優良農地と遊休農地及び無断転用農地等の把握はしっかりと行い、課題解消の基本としています。

### 最適化交付金活用の活動展開

岡崎市は平坦地域と中山間地域が混在しています。平坦地域の集約化は進んでいるものの、中山間地域では農業従事者の減少・高齢化等による耕作放棄地や不在地主等所有者不明の農地が増加しており、早急に対策を講じる必要性があります。

また、今年の8月からは、農地最適化交付金を活用して、新たな活動を模索しながらより成果のある農地利用最適化活動を展開していきたいと思えます。実質化された人・農地プランに向けては、より多くの農業者が納得できるプラン作成を目標に、農業委員、推進委員の連携で取り組みます。

## 知立市



知立市農業委員会 会長  
石原國彦さん

稲作に加え、都市近郊型農業が進んでいます。しかし、担い手の高齢化・後継者不足も進んでいます。農地利用最適化を今後も促進していきます。

### 農地利用最適化推進会議

兼業農家が大半を占め、また、高齢化、後継者不足農家も多く存在します。担い手育成等の農地利用最適化を図っています。

総会終了後、「農地利用最適化推進会議」を開催しています。市域を東西南北4地区に分け、4名の推進委員と14名の農業委員が、各地域の身近な情報を基に、議論を進めています。

### 畑作農地の活用を推進

農地の利用状況調査、農地パトロールは、畑地を重点に進めています。地域で畑の耕作をしたい、畑作耕地を拡大したい人の情報を取集し、マッチングを推進します。市が協力して開設した体験農村「かきつ畑」と連携し、委員が月2回畑作指導を行っています。

### 農業委員長座談会の開催

#### 各農業委員会の課題を実感

豊田加茂・西三河の地域協議会の会長、副会長に参加いただき、各市の農業委員会活動について、意見交換をしました。農地利用最適化活動は、3年前の法改正時から最重要業務として法定業務となりました。座談会で、各農業委員会の取り組みが明らかになり、抱える課題の困難さを実感しました。これを機に、今後の活動をさらに進展されることをお願いさせていただきます。



司会進行 豊田市役所産産部 農林振興室長 高部広明さん

# 実質化された人・農地プランの実行を踏まえた農地利用最適化の推進対策

既に、実質化された人・農地プラン地区とこれから、人・農地プランを作成する地区

3地区と3集落を、既に実質化された地区・集落と判断

■豊田市では、「農地中間管理事業の推進に関する法律」の一部改正により、実質化された人・農地プランの作成を進めています。また、プランの工程表を公表していくことになっています。

既に実質化しているか否かの判断基準は、①既に農地の過半が担い手に集約されている地域 ②区域内の農地の過半について

## 既に実質化されたと判断した地区・集落

対象地区名	範囲	区域内農地面積 (ha)	近い将来の農地の受け手	
			中心経営体数	現状の経営面積合計 (ha)
豊田地区	豊田	323.2	13	183.1
上郷地区	上郷	766.4	74	427.4
高岡地区	高岡	1201.3	2	746.4
松平地区	中垣内、石楠	11.2	2	8.3
藤岡地区	西中山南部	34.5	1	5.8

## 令和2年度中にプランを作成実質化する地区・集落

対象地区名	集落名	担当推進委員名
高橋地区	手呂 川田町	柘植和道
猿投地区	猿投町	羽根田茂法
保見地区	伊保町・貝津町 東保見町・保見町・篠原町	渡邊秀己 篠田 謙
石野地区	成合 山中町	田中新二
松平地区	豊松町 羽明	加藤正道
小原地区	大平町 小原田代	加藤信行 鈴木博隆
足助地区	岩谷町 西檉尾・上切山	倉田富夫 宇井正法
旭地区	押井 東萩平	鈴木順三
稲武地区	大野瀬集落	大島年春

て、近い将来農地の出し手と受け手が特定されている地域 ③後継者が確保されており、将来安定的に継続される見込みのある集落宮農組織がある、等です。現在、豊田・上郷・高岡地区全体と、松平・藤岡地区の中の3集落が公表されています。

## アンケート調査地図の活用 新規プラン作成と委員活動

市では、今後実質化された人・農地プラン作成に必要な地域について、農業者



▲地図は集落単位で活用できます。但し、面積が一定範囲なので複数枚になることも。後継者有無の状況、貸付希望等の農地情報が色分けで見やすい。

## 人・農地プランの作成は 各種支援措置の必要条件

農地を中間管理機構にまとめて貸付する場合の地域集積協力金、基盤整備事業の支援措置等はプランでの位置づけは必須となります。また、スーパーL資金融資は、当初5年間は利子が優遇されます。

また、実質化された人・農地プランに基づく貸出意向のある個々の農地の面積や地番を把握し、中心経営体との具体的なマッチングをしていくことも必要です。

農地を中間管理機構にまとめて貸付する場合の地域集積協力金、基盤整備事業の支援措置等はプランでの位置づけは必須となります。また、スーパーL資金融資は、当初5年間は利子が優遇されます。

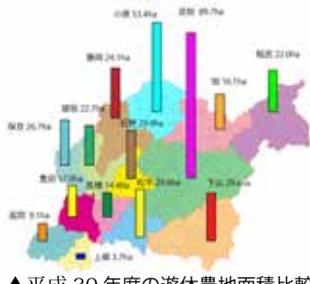
## 農地利用状況調査 を実施中です。 ご協力をお願いします。

地域を回り、農地に立ち入ることもあります。

農業委員会では、毎年市内全ての農地を対象に、農地利用状況調査を実施しています。令和2年度は、8月から開始しています。推進委員45人、農業委員19人で、担当地区を調査します。調査は、遊休農地の状況、山林化した農地、違反転用農地等を確認します。

## 遊休農地解消にご協力 ください。

農業委員 会では、遊休農地の発生防止と解消に努めています。調査の過程で、農地所有者の方に戸別訪問することもありますのでご承知ください。遊休農地でお困りの場合も、遠慮なくご相談ください。



# 真夏の現場で汗

# 遊休農地解消の、農地パトロールを開始

小原地区の 農業委員・推進委員



▲8月14日（金） 農地パトロールの初陣。調査対象リストと地図を照合しながら調査を実施。左から農業委員・加知満さん、推進委員・鈴木博隆さん、同・加藤信行さん。



▲1号遊休農地 かなり荒廃が進んだ農地。高齢化と離農によりこうした農地が増えています。



▲2号遊休農地 荒廃が比較的軽い農地。保全管理を勧め、遊休農地の解消と防止をお願いします。

## 農地利用状況調査は初の経験 新任委員3人でパトロール隊編成

■小原地区の農地面積は約439 ha。昨年実施の農地利用現況調査の遊休農地面積は約60 haでした。遊休農地面積率は約14%、増加傾向で、山間地としては高い状況です。小原地区では、今回の改選で3人の委員全員が代わりました。農地利用状況調査は初めての経験なので、合同で農地パトロールを行うことを話し合いました。

■お盆時期の8月14日午後、委員3人に、農業委員会会長、事務局職員2人が加わり、試験的パトロールを実施しました。会長が調査要領を指導し、土地勘のある委員の出身集落を手始めに調査を開始しました。

## 昨年度調査の遊休農地を基本に 農地地図で一筆毎に確認

■調査は全農地を巡回しますが、昨年度の調査結果の1号・2号遊休農地がどうなっているかを確認するのが基本です。調査の

過程で、新たな遊休農地が発生していないか、資材置場、駐車場等への違反転用がないかも同時に調査します。

■加藤信行推進委員さんの出身集落・李町すももの調査では、この農地の所有者は転出したため遊休農地となっているとの加藤さんの情報で直ぐに判定できた事例がありました。調査を迅速に行うには、調査対象農地がどこにあるかを的確に知ることが重要です。初めての巡回は農地の特定に時間がかかります。小原地区の全遊休農地数だけでも、約140筆あります。今後10月30日まで何日間もかけて調査を続けていきます。

## 戸別訪問調査による 遊休農地解消活動が課題

■今後調査を進める中で、遊休農地を草刈り等で維持管理できるように戸別訪問をしてほしいというケースも生じてきます。毎年行う調査ですが、地道な調査活動を通じて、農地利用の最適化を進めて行きます。  
(事務局・神谷光平 記)

農業委員会 会長 雑記

■新型コロナウイルスと農業委員会活動

農業委員会の重要業務は農地利用最適化活動である。この活動は、人に会ったり、集会を開いたりすることが重要になる。いわゆる「三密」に係る内容となる。農業委員会としては、会議参加人数の縮小等様々な工夫をしてきた。自粛だけでは、活動が停滞してしまう。今後も状況に合わせ、さらに活動を展開しなければならない。

■改選後の農業委員会の新体制

7月20日を区切りに、新たな任期3年の活動を始めた。物事最初が肝心と言うが、コロナ禍で予定の研修が満足にできないのが残念である。幸い、多くの委員が再任となり、業務の停滞は免れそうである。しかし、新任委員にはいきなりの実務に直面することもあり、事務局に問い合わせの電話が響いた。

■農業委員会長の座談会

近隣市の農業委員会長の座談会を開いた。今回の特集記事である。忌憚のない対面の情報交換は得るものが多い。全体を把握し、個の特異を自覚することは、次へのステップに繋がる。

(農業委員会会長 横籾 鈞)

農業委員・推進委員 活動紹介



農業委員の任命と推進委員の委嘱

7月20日、農業委員への任命辞令交付式が行われました。市長から「豊田市は山間部から南部の平坦地まで、多様で、豊かな農業があります。委員同士でもお互いに学びあい、豊田市全体の農業の底上げに貢献していただきたい。3年間、よろしくお願致します。」との挨拶がありました。

同日、農業委員会長から推進委員への委嘱状交付式が行われました。交付式後、早速業務研修を受け、意を新たにしました。

農地利用状況調査の事前会議開催

8月6日、豊田市役所南庁舎にて令和2



▲新型コロナウイルス対策のため、午前・午後と2回に分けて開催されました。調査手順の説明を受けた後、地区別に調査の具体的話し合いを熱心に行いました。

年度の農地利用状況調査実施の事前会議を開催しました。会長より、利用状況調査の主旨と制度説明、農地法の解説や遊休農地の判定手順・解消に向けての説明が行われました。事務局より調査手順の説明、記録の仕方等の説明がありました。今年度は委

員の改選で新任の委員が多く、説明後の質疑では沢山の質問が飛び交いました。

会議終了後は、各地区毎に委員が集まり、調査の分担や調査予定日等について話し合いを行いました。会議後には、8月から10月30日にかけて、豊田市内にある農地の状況を調査します。

農業委員会総会

審議概要紹介



第5条調整区域転用、約4万7千㎡

毎月開催の農業委員会総会において転用案件等を審議します。4月から7月までの調整区域内転用件数は、第4条(地主が農地以外に利用)が13件で、面積は約7千㎡でした。第5条(地主以外が農地以外に利用)の転用件数は72件で、面積は約4万7千㎡でした。届出制の、市街化区域内転用は、第4条が20件、約1万1千㎡、第5条が95件、約6万5千㎡でした。

また、農地等を農地として売買や貸し借りする第3条の件数は、28件で、面積は約5万9千㎡でした。その他、生産緑地の主たる従事者証明6件、相続税納税猶予の適格者証明4件を審議しました。

農用地利用集積計画決定 約32万2千㎡

4月から7月までの農用地利用集積計画決定は、約32万2千㎡でした。農用地利用配分計画決定は、約7万8千㎡でした。

空き地情報バンク制度による農地売買

平成28年10月の空き地情報バンク制度に加え、新しく空き地情報バンク制度が創設されました。この制度により購入する土地に合わせて、付随する農地を購入することが出来ます。面積は1〜10アール未満で、都市計画区域外農地(下山・足助・小原等)に限りです。8月3日からの適用です。

トピックス

「農業委員会だより」が全国一位に

昨年行われた第26回「農業委員会だより」全国コンクールにて、豊田市農業委員会が最優秀賞を受賞しました。6月26日、早速市長に喜びの受賞報告を行いました。

編集後記

農業委員・農地利用最適化推進委員の改選により、農業委員会にも新たな風が吹きました。農業委員会だよりの最優秀賞受賞という快挙に驕ることなく、これからも新体制の農業委員会の取り組みを、農業者の皆様にお届けできるよう努めます。

(事務局一神谷光平)

農業者年金で安心な老後を

●農業者の老後は国民年金だけでは不安です

- 加入できる人 ①国民年金第一号被保険者
- ②年間60日以上農業に従事 ③20歳以上60歳未満の方 \*国民年金+農業者年金が安心
- 積立方式だから、自分がかけた金額は年金として生涯もらえます。
- 保険料 月2万円〜6万7千円まで
- 申込み・問合せ

豊田市農業委員会事務局 (TEL34-66339)  
あいち豊田農協 (TEL31-232266)